

松前町の

女性を

もつと笑顔に

「女性の感性や視点を生かした魅力あるまちづくりを行いたい」そんな思いから、6月から9月にかけて、まちづくり女性会議を全3回開催しました。「女性にとって魅力があつて、笑顔でいられるまち」とは、どんなまちなのでしょう。今回の特集では、会議での意見とともに、参加した女性の生活を追うことで、松前町に住む、松前町で働く女性がもつと笑顔でいられるために必要なことについて考えます。



まちづくり女性会議が始動

松前町では、約45年後の2060(平成72)年、人口が現在より1万人近く減少し、約1万9千人になると推計されています(国立社会保障・人口問題研究所の推計)。人口が減少すると、近所にお店や病院がなくなったり、若い世代の医療費の負担が増えたり、子どもの減少で教育現場の確保が難しくなったりと、私たちの生活に大きな影響を及ぼします。

この人口問題に対応するため、松前町では「子育て支援」と「快適で、文化的で、おしゃれなまち」に力点を置いたまちづくりを進めています。その一環で、女性の感性や視点を町政に生かし、誰もが「行ってみたい・住んでみたい・住んでよかった」と思ってもらえるまちづくりを進めようといわれたのが「まちづくり女性会議」です。参加したのは、松前町に暮らしている人や、町外に暮らし松前町で働いている21人の女性たち。「今と昔では、子育てについての考え方が変わってきている。今、おばあちゃんとして孫と関わっている人のために、子育てについて学べる機会があつたらよいのではないか」「お母さんを巻き込んだ子育てマップ



女性会議に参加した
小池 祐梨子さん
Koike Yuriko

町長が変わり、おしゃれなまちづくりなど、まちが変わろうとしている松前町。具体的なまちづくりの内容が知れなかったのと、子どもが未熟児で生まれ、保健師さんにお世話になり、さまざまな制度に助けられたので、何かお手伝いしたいと思い参加しました。まちが変わる中で、町民が参加して意見を言うことは意義があります。ターゲットを女性に絞った会議だったので、発言しやすかったです。ただ、子育てのテーマのときは、直面している問題を知る上でも実際に子育てしている人がもつといればよかったと思います。



本年度の参加メンバー。会議は来年度も引き続き、継続していく予定。

や、お父さんやおじいちゃんおばあちゃんを対象にした子育てに関する本を作成したらよいのではないか」「冬に、思い通りにイルミネーションをしたら多くの人が集まるのではないか」「街灯が少なくて危ないと感じる場所があり、ランニングやウォーキングが楽しめない。場所を特定して見栄えのよい街灯区域を作ってみてはどうか」など、子育て支援、町の魅力発信や防犯に関することなど、さまざまな観点から多くの意見が出されました。

女性会議で出された意見に対して、行政としてどのように対応していくかについては、年内中に町ホームページで皆さんにお知らせし、できることから実行に移していく予定です。しかし、行政が対応していくだけでは、よりよいまちづくりを進めることができるわけではありません。

そこで、次のページからは、女性会議に参加していた皆さんが、実際に子育てをしたり働いたりしている現場を訪ね、声を聞くことで、女性がもつと笑顔に暮らせる、働くことができるまちづくりのために、私たちができることについて考えます。

21人の女性が描くまちの未来。
実現に向け、私たちができることは一。



女性×働く

平成28年版「男女共同参画白書」によると、27年度における「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」は687万世帯で、10年前より126万世帯ほど増加しています。増加する働く女性たち。高市吏沙さんに話を聞きます。



Work

「ありがとうございます」笑顔で接客する高市さんは、生まれも育ちも松前町。「松前町は暮らしやすいです。できれば住み続けたいし、仕事も続けたい」と話します。今後、結婚や出産を考える中で不安に感じるのは、子どもが病気のとき。「もしものとき、長時間預けられる場所が多くあれば」と訴えます。加えて話すのは、職場環境のことです。「今の職場は、基本的に定時で帰れるし、人数も多いので休みが取りやすいです。どの支所でも結婚後もやめずに仕事を続ける人が多いのは、職場環境も大きいと思います」。

また、仕事で子どもに対する共済を取り扱っており、子育て中の母親と関わる機会も多い高市さん。仕事と育児の両立を行っていく上でも、交流や情報共有の場の大切さも感じています。「会員さん向けに、ベビーピクスやマタニティヨガを企画することがありますが、すぐに定員でいっぱいになってしまいます。家で子どもというお母さんは、外出して友達づくりや情報収集できる場として、こういったイベントを求めていると思います」

女性×子育て

28年版「少子化対策白書」によると、27年度における6歳未満の子を持つ夫の1日あたりの子育て時間は39分。女性たちは子育てに奮闘しています。3人の子どもを育てる福田郁恵さんに話を聞きます。

「1人目が生まれたとき、近くにママ友はいなくて。子育て支援センターによく行きました」と話す福田さん。「子どもを預け、大人だけで行うサークルもあるので、子ども抜きのつながりもできました」と振り返ります。その後、「3人目が生まれてからは、上の2人は大きくなっていったので、町外の児童館へ行く機会が増えました。幅広い年齢の子どもが利用でき、写真があるなど子ども目線で使い方が書いてあって利用

しやすいです。松前町にもこんな施設があれば」と話します。また福田さんは、実母が働く子育てサロンを手伝っています。「自分からコミュニケーションをとるのは苦手」、子どもの人見知りが強い」と悩むお母さんは、この小さいサロンから慣らしてほしいです。周りとの交流がないと、子どもが両親以外と関わらず人見知りをしてしまう。お母さんも子どもと1対1でストレスがたまってしまう。「キーツ」と頭を抱えてしまうことのないお母さんはいませんか」と、お母さんの不安や立ちを解消する場の大切さを訴えます。

さらに福田さんは、周囲の理解について話します。「母が孫を迎えるおばあちゃんとしての準備をしてくれました。親の世代とは、抱き方や沐浴の方法など子育ての考え方は変わっています。それを知らないと、必死に子育てを頑張るお母さんを傷つけてしまいます」。

若くして子どもを育て、見知らぬ人に心無い言葉を言われた経験がある福田さん。子育てする夫婦だけでなく、見守る祖父母、地域の人たちの理解も必要だと感じています。



みんなで集まって談笑したり相談したりして、ママ友たちと助け合い、息抜きをしながら子育てをしている福田さん。

「子どもと遊べる施設が増えれば」
女性会議に参加
上野麻衣さん



子どもが急に熱を出したときは、仕事は休みをもらうこともあります。子どもの体調がよくないときに預けられる施設が増えたらと思います。また出産して仕事復帰したばかりのころ、帰ってごはんを作り、子どもを寝かしつけるのは慣れず、大変でした。夫や両親など周りに助けられながら仕事と子育てを両立しています。



対象施設拡大

病児保育

学校などに行くことができる状態でない小学6年生以下の子どもを、仕事などで看ることができない保護者に代わって日中預かり、保育士や看護師が保育看護します。11月から、キッズハウス（むかいだ小児科。上記写真）に加え、下記の施設も利用できるようになりました。利用状況や子どもの症状で預かりができない場合があります。詳しくは各施設にお問い合わせください。

- | | | | |
|--------|---------|------------|-----|
| 松前町の施設 | キッズハウス | ☎ 985-3929 | |
| 松山市の施設 | 石丸小児科 | ☎ 921-2918 | New |
| | 芳村小児科医院 | ☎ 871-0800 | New |
| | 天山病院 | ☎ 946-1515 | New |
| | 愛媛生協病院 | ☎ 961-1307 | New |

- ☎ 福祉課児童福祉係 ☎ 985-4114
松山市保育・幼稚園課 ☎ 948-6412



阿部亨さん、登誉晃さん、華寿葉ちゃんファミリー

病気のときも
安心して
預ける
一緒に
理解する
女性も男性も

「あまり男性はいないです」
このように話すのは、子育て支援センターに父子で遊びに行ったり、保健センターの教室に通ったりしている阿部亨さんです。「子どもに嫌われたくない」と笑う阿部さんは、1歳までは愛娘の華寿葉ちゃんをお風呂に入れていました。現在は、おじいちゃんの役目だと言います。
女性の視点から働く現場

や子育ての様子を見てきましたが、よりよい環境の実現には、男性の皆さんの協力が欠かせません。女性が輝く環境は、男性も、そして、まちなかも輝きます。同様に、性別関係なく、当事者でなくともその人たちが理解しようとするのも大切です。
皆さんの家庭はどうですか。また、自分の家庭以外にも、周囲のために自分ができることはないでしょうか。女性も、男性も笑顔でいられる、誇れるまちに向けて、みんなで一緒に考え、行動に移していきましょう。



育児サークル

行ってこーわい会ってこーわい (p.32) のコーナーに「育児サークル KIRA ☆ KIRA」を紹介しています。



ウェルカムベビースクール

妊娠中から、妊娠、出産、育児について知り、パートナーや家族に理解してもらうため、保健センターが開催している教室です。また、乳幼児健診時などに、母親だけでなく、父親や家族からの子育ての相談を受け付けています。詳しくは保健センター係 (☎ 985-4118) に問い合わせるか、QRコードを読み込んで確認してください。



児童館

遊戯室、図書館があり親子で自由に遊べるほか、子育てサークルやダンスなどの教室もあります。詳しくは、児童館 (☎ 985-3388) に問い合わせるか、QRコードを読み込んで確認してください。



にこにこ子育てサロン筒井

日時 第1・3月曜日 9時～11時30分
※ 祝日の場合は翌週月曜日
場所 筒井公民館
対象 就学前の児童と乳幼児と家族
☎ 笹山伊智代 (主任児童委員) ☎ 985-3309

子どもが
楽しく
過ごす

子育ての不安や
悩みを
共有し、学ぶ

子育て中は、家族、保育所や学童保育など行政がしているもの、児童館や公民館の教室などを活用して、自分1人だけでなく周りの人を頼り、みんなに育ててもらいました。あつという間の子育て一。できるだけ子どもに関わる意識を持って楽しんでください。



「町の特色を含めた教育で、みんなに選ばれる町にしたい」
女性会議に参加 神野由里子さん



子育て支援センター・ファミリーサポートセンター

支援センターは、親子の友だち作りと情報交換のためサークルを行い、ファミサポは、育児の手助けを有料で行う登録制の組織です。詳しくは、毎月の広報のお役立ちカレンダーかQRコードを読み込んで確認してください。



「本音で話せるサロンをもっと増やしたい」
女性会議に参加
笹山伊智代さん

一人で悩まず、気軽に話せてほっとできる場としてサロンを開いています。サロンでは、特別なイベントはしません。わが子との接し方が分からず不安に思い自信をなくしている人は、子育ての先輩のスタッフに相談してください。心にゆとりをつくり、子どもの笑顔の素晴らしさに気づきましょう。



女性の笑顔は
男性、まちの笑顔につながる

女性会議のメンバーの声を基に、皆さんがすぐに行動に移せ、活用できる場所や、子育ての先輩のアドバイスを載せました。みんなで行動することは、女性だけでなく、男性、まちの笑顔につながります。